



世界に希望を生み出そう

加古川平成ロータリークラブ

会長 林 知宏
幹事 畑山 哲人
広報小委員長 山本 裕一
2680地区ガバナー 安行 英文

例会日/毎水曜日 12:30~13:30・例会場/加古川商工会議所会館 4F
事務局/加古川市加古川町溝之口 800 加古川商工会議所会館 5F
Tel. 079-422-8000 FAX. 079-422-8100
ホームページ <http://www.k-heisei-rc.com/> Eメール heiseirc@basil.ocn.ne.jp

2023~2024年度 RI 会長 ゴードン R. マッキナリー

No.1560 April 17、2024

例会プログラム

第31回(4月 17日)

「次年度小委員会」

次年度会長・幹事

例会当番 網本

次週例会プログラム

(5月 8日)

「姉妹クラブ+35周年例会について①」

次週例会当番 井上

前週例会報告

◇ ゲスト

◇ ビジター

◇ 出席率 前週 会員数 17名 出席数 11名 出席免除 1名 欠席数 5名
前々週 会員数 17名 出席数 12名 出席免除 2名 欠席数 3名

◇ 欠席者 5名 金川 高田 畑山 藤田 松野

◇ メークアップ



★ 古希のお祝い例会 永田さん、宮宅さん、井上さん、おめでとうございます！

本日の幹事報告

※ 例会欠席の時は必ず事前に事務局へ連絡！

※ 本日の食事；100万ドル

① 各RC例会変更のお知らせ

高砂RC 5月3日(金)→祝日

5月10日(金)→休会【定款第7条第1節(d)による】

5月24日(金)→休会【定款第7条第1節(d)による】

高砂青松RC 5月1日(水)→休会【定款第7条第1節(d)による】

5月29日(水)→休会【定款第7条第1節(d)による】

加古川中央RC 5月2日(木)→休会【定款第7条第1節(d)】

6月20日(木)12:30→18:00～ 最終例会 於；加古川プラザホテル2階

6月27日(木)→休会【定款第7条第1節(d)】

② 回覧します

・インフォーマルミーティング+観桜例会会計報告

・(公財)米山梅吉記念館より館報2024 Vol.43、春季例祭のご案内、賛助会入会のお願い

・(公財)加古川市国際交流協会より令和5年度加古川市青少年海外派遣報告書

・熊本平成ロータリークラブ週報

・(公財)PHD協会よりPHD LETTER vol.155

・地区より安行英文ガバナー年度第四回職業奉仕ONE-LINE勉強会のご案内

③ Boxに月信、Rの友、ハイライトよねやま vol.288・298、地区研修協議会のご案内、本日の資料を入れています。

④ 4月29日(祝・月)開催の地区研修協議会に登録の皆様、ご出席よろしくお願ひいたします。

⑤ 次週24日(水)、次々週5月1日(水)の例会は、例会取消【定款第7条第1節(d)】となります。2週続きますがお間違ひのないようお願いいたします。

4月度理事・役員会報告

I 協議事項

1) 5月プログラムの件

鳥井 俊介例会担当小委員長

5月1日(水)： 例会取消【定款第7条第1節(d)】

5月8日(水)： 卓話を「姉妹クラブ+35周年について①」に変更

5月15日(水)： 卓話「姫路ローターアクトクラブ 名物活動について」

姫路ローターアクトクラブ 幹事 中村 雅基氏

5月22日(水)： 「姉妹クラブ+35周年について②」

5月29日(水)： 立正学園見学例会

※見学終了後、都合の良いメンバーで昼食を予定(例会費より)

於) そば切り稲美(加古郡稲美町中一色830-1) 承認

2) ロースター印刷の件

・例年通り、(株)ハリマニックス様に依頼することで承認

3) その他

・定款細則変更の件

⇒理事構成メンバーについて、会長エレクト兼副会長(理事)を会長エレクト(理事)、副会長(会員増強担当)(役員)に分ける事ができるように、細則を変更する

但し、副会長をおくかどうかは、当年度会長の判断による

II 報告事項

① 4度ロータリーレート 1\$ = 151円(現行151円)

② 3月度累計欠席連絡状況 電話：0 メール：20 fax：0 出欠表：3 なし：0

SONG TODAY

春の小川

尋常小學唱歌（第四學年）／大正元年

作詞 高野 辰之 作曲 岡野 貞一

春の小川は、さらさら行くよ。
岸のすみれや、れんげの花に、
すがたやさしく、色うつくしく
咲けよ咲けよと、ささやきながら



クラブ会報・雑誌
記録小委員会



井戸の価値

安全な水の供給が多くの恩恵を村にもたらす

ムセキワとムシャキの住民に限らず、ジンバブエでは水を当たり前にあるものとして使う人はいません。首都ハラレから約 160 キロに位置するこの二つの村は、水不足による大きな影響を受けています。つい最近まで、多くの住民は毎日 5 キロ以上歩いて水を汲みに行っていました。

「人びとは井戸や川から水を得ていた」と、ムシャキの議員であるトライモア・タファズワ・カバンダさんは話します。

この状況が変わったのは、数千キロも離れた二つのロータリークラブが補助金プロジェクトで協力することを決めたときでした。2020 年、米国カリフォルニア州のセントヘレナ・ロータリークラブの会員たちは、ジンバブエで育った妻をもつゲストスピーカーから、同国の村々が置かれた状況について学びました。90%以上の世帯が農業を主な生計手段としているジンバブエで、気候変動が降雨量に壊滅的な影響を及ぼしていることを知ったのです。ジンバブエの降雨パターンは、ここ 20 年で大きく変化しました。かつて雨季は 10 月から 3 月まで続きましたが、今では 12 月下旬まで始まらないこともあります。

「人びとはひどい水問題を抱えていました」と、セントヘレナ・ロータリークラブの元会長であるジョン・マールナーさんは振り返ります。「ほとんどの場合、女性たちは毎日何キロも歩いて水を運んでいました。行ったとしても水が得られなかったり、得られた水が汚染されていたりすることもしばしばでした」



セントヘレナのロータリアンは、地域社会調査を実施したハラレCBDロータリークラブ（ジンバブエ）に連絡を取りました。その後、両クラブは資金を集め、ロータリー財団のグローバル補助金を申請しました。82,000米ドルのプロジェクト計画では、二つの井戸を掘り、太陽光発電ポンプと水の配管システムを設置し、住民を対象に設備の維持管理についての研修を行い、衛生の重要性に関する教育キャンペーンを実施することが予定されました。

このプロジェクトは簡単そうに見えましたが、完了までに1年以上を要しました。最初の障壁は役所との手続きでした。

「プロジェクトを始める前に、必要な認可を得るためにさまざまな役所と連絡を取ることが極めて重要」だと、ハラレ・ロータリークラブの元会長であるアントニー・マツィカさんは話します。「四つのレベルの承認を受ける必要がありました。州開発調整官、地区開発調整官、農村地区評議会、

そして最後とはいえ重要なのは、その地域の首長です。これらのさまざまな利害関係者を通さなければ、プロジェクトを成功させることはできませんでした」

作業が始まると、クラブは予想もしなかった問題に直面しました。掘った井戸の一つが水脈に当たらなかったのです。

「ジンバブエで掘削を行うには二つの方法があります。掘削業者に掘削場所を指示し、その穴から何も出てこなければ別の場所での掘削費用を負担する。それが一つの方法です」。そう話すのは、米国カリフォルニア州のサンタローザ・ロータリークラブ（米国カリフォルニア州）の会員で、このプロジェクトに携わったダン・バルフさんです。「ウェットホール、つまり水の出る穴を掘削することを保証する契約をすべきでした。私たちにとって これは教訓となりました。結果として、新たに資金集めをしなければなりませんでした」

最終的に、村の人びとは水を手に入れることができました。現在、セントヘレナとハラレの両クラブは、この地域のさらに二つの村を支援するため、2回目の補助金プロジェクトを計画しています。このような取り組みには、まだ多くのニーズがあります。世界保健機関（WHO）の推計によると、水や衛生設備が不十分のために毎年140万人が命を落としています。安全な水を手に入れることは、しばしば驚くような形で人びとに影響を与えます。

「水は、ロータリーのすべての重点分野に関連している」と話すのは、水と衛生のロータリー行動グループのメアリーベス・グローニー・セリーン委員長です。「水が得られれば、子どもたちは川に水を汲みに行くために学校を休む必要もありません。親も水汲みに時間を割く必要がないため、経済的な生産性が高まります。水を起因とする感染症にかかる人も少なくなります。すべては水から始まるのです」

ムシャキとムセキワでは確かにそうでした。「今では、ほとんどの村人は水を汲みに何キロも歩く必要がありません」とカバンダさん。「また、コレラのような病気も防げるようになりました」

カバンダさんとロータリー会員は、新しい井戸のおかげで、川の水に含まれる細菌が原因となるコレラの流行からムシャキとムセキワの人びとは守られていると信じています。地元の病院によると、これらの村からはコレラ患者が出ていません。

「これはおそらく、私たちのプロジェクト、つまり安全な水が供給されたおかげだということです」

